

▲佐木館長の  
たのしい文章教室

【小学生の教室】  
7月22日(日)  
〔低学年の部〕(高学年の部)  
【中学生の教室】  
7月29日(日) 2回



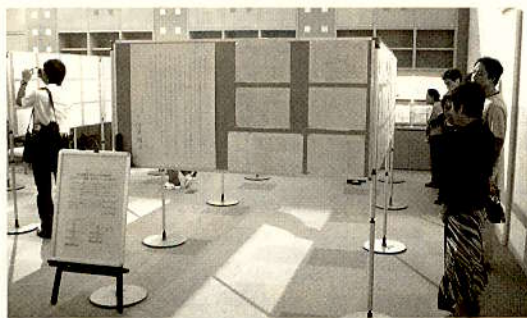
始まったばかりの夏休み。文学館は、朝から子どもたちの元気な笑い声で包まれました。  
佐木館長の「未来の作家を育てたい」という思いがかたちとなり、文章教室が開催されました。

館長自らが審査・選考し参加者を決定しました。



「作家」「医師」といった人気の職業から、「にんじゃけいさつ」や「課長になりたい」というユニークなもので、子どもたちの夢のかたちは様々です。教室では、まず原稿用紙に詰まった「私の夢」を、子どもたちに読み上げてもらいます。その作文ひとつひとつ、夢のひとつひとつに、時に、参加者とのやりとりを織り交ぜながら、館長がアドバイスや感想を述べました。教室の最後には、館長から参加者全員に修了証が手渡されました。

教室終了後も、文学館の見学や記念撮影と、(未来の作家)たちはさかんに動き回って、あらゆるものを吸収しているように見えました。中には、館長に取材を求める(未来のルポライター)の姿も。教室に参加してくれた子どもたちの中から、真の作家やルポライターの生まれ



る日が、今から楽しみです。また、寄せられた作品はすべて、夏休み期間中、文学館内に展示。作品には審査した佐木館長による直筆のコメントが寄せられ、来館者の関心を集めていました。

参加者各回一〇余名

アンケートより

- ◇ 自分の本をつくらたい。(小学生)
- ◇ わたしは作家になりたい。いろいろな応募をしています。また来たいです。(小学生)
- ◇ 作家という職業もおもしろそうだと思います。(中学生)
- ◇ これからも、作文など心を込めて書いていきたいと思っています。(中学生)
- ◇ 「ここがおかしい」など、悪い所を言われなかったのが、本当に自信を付け、今後はのびのび文章を書けると思っています。(保護者)
- ◇ 長い文章を書く機会がなく、今回はじめて四〇〇字に挑戦！子どもたちの素直な文章に私も心が温かくなりました。(保護者)
- ◇ 作家さんならではの、か、よくありがちな優等生的な文ではなく、少しおもしろい感じの文章が選ばれていて、「ほう」という感想を持つた。(保護者)
- ◇ 「生徒の夢」を改めて聞いて、新鮮さと喜びを感じました。(引率者)

▲クイズラリー  
「めざせ！文学館博士」  
8月19日(日)・26日(日)



北九州の文学を楽しく学ぶ、クイズラリー「めざせ！文学館博士」を開催しました。「火野葦平は若松の家になんと名前をつけたでしょう?」、「みずかみかずよの詩に出てくる『あかいカーテン』ってなんのこと?」などの問題に小学生から大人まで挑戦しました。「クイズがあるので、普段よりもじっくりと観覧できてよかった」と参加者から好評でした。

参加者各回約二〇名